



消防団たずね歩き

高齢者にやさしい町をめざして

私たち神戸中央消防団第4分団です。

私たちの第4分団は、神戸の中心三宮を中心に山側・南側を担当分団としています。

日ごろから、小型動力ポンプの点検はもちろん、地域のふれあいのまちづくり協議会（ふれまち）や、婦人会・学校関係に対し、放水訓練・消火器の扱い、そして、消防団員救急インストラクターを通じて、AEDを用いた心肺蘇生講習をおこない指導しています。

また、平成17年から厚生労働省で実施されている「認知症を知り地域をつくる10カ年」キャンペーンの一環である、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を見守り、支援する「認知症サポーター」を養成することに賛同しました。

「認知症サポーター」とは何も特別なことをする人ではありません。

認知症について正しく理解し、偏見を持たずに、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活動します。

自分自身の問題と認識し、友人や近隣の人、家族に、学んだ正しい知識を伝えること、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。

私たち第4分団は、地域の一人暮らしの

高齢者の方に火災予防の話をするのはもとより、地域の認知症の方の見守り、声掛けなどをスムーズにおこなうためにも必要だと思いい、団員の中から、私が、サポーターの育成をおこなうための、キャラバンメイトの資格を取得しました。

まず、消防団のメンバーが、「認知症サポーター」の勉強をし、その後、地域の方や婦人会、ふれまちの方々を対象に「認知症サポーター養成講座」を定期的におこなっています。

この地域で、一人暮らしや認知症高齢者宅からの火災、また孤独死を出さないためにも、日々勉強し、消防団活動に生かしていきたいと思ひます。

（中央消防団 第4分団 北村恭子）



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

